弘前大学教育学部紀要　第128号：１～６（2022年10月）
Bull. Fac. Educ. Hirosaki Univ. 128：１～６（Oct. 2022）


# 島根県立図書館所蔵の貝原益軒著作資料について

# Survey report of materials written by Mr.Ekken Kaibara in the Shimane Prefectural Library

郡　　千寿子*
Chizuko KOHRI*

**要　旨**

島根県立図書館には、貝原益軒著作の近世期版本資料が18本所蔵されていることが判明した。それらの文献資料を紹介するとともに一部資料の書誌調査結果について報告する。貝原益軒は、往来物資料の価値や位置づけを考える上だけでなく、近世期の教育実態や地域環境について考える上でも重要な存在である。該当資料のうち、『童子訓』と『女大学・女今川』は、往来物に分類できる資料であり、目的別では、教訓科往来と女子用往来に分類でき、出版地域は大坂と江戸であった。それらに加え、『続和漢名数大全』『和州巡覧記』『大和俗訓』について、書誌文献調査結果について報告するとともに画像でも紹介した。

往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、山陰地方の島根県立図書館において、貝原益軒著作の文献資料が多数確認できたことはひとつの特徴ともいえるであろう。他地域の状況と比較する上での参考となり得ると思われ、今後の基盤となる調査報告である。

**キーワード**：山陰、島根、往来物、言語生活、地域文化、貝原益軒

## 1　研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究[1]をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されている。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発掘も十分にすすんでいない現状にある。そうした事情を背景に、東北地域の調査研究[2]を発端に、東北地域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かった北陸地域にも調査対象[3]を拡げて研究成果を公表してきた。地域間格差や文化伝播事情など研究の進展を目指し、山陰地域の調査として、島根県立図書館所蔵資料、鳥取県立図書館所蔵資料、米子市立図書館所蔵資料の調査結果[4]も報告した。

本稿では、島根県立図書館に所蔵されていた貝原益軒の著作資料に焦点を絞って紹介する。貝原益軒は、往来物資料の価値や位置づけを考える上だけでなく、近世期の教育実態や地域環境について考える上でも重要な存在である。島根県立図書館において、18本もの近世期版本の所在が確認でき、活用実態がうかがえたといえるであろう。

基本的に従来の調査手法を踏襲し、調査対象の資料を厳選した。また文献資料の記載内容については、『国書総目録』[5]および『古典籍総合目録』[6]『往来物解題辞典　解題編』[7]等によって確認し検討したものである。

＊弘前大学教育学部国語教育講座
Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

## 2　調査結果

『島根県立図書館　蔵書目録　第１巻～９巻』を参考に調査し、調査対象に該当すると思われる貝原益軒著作の近世期版本について調査と整理を行った。18本の文献資料を確認し、書名と出版年（西暦）を列挙して紹介する。参考までに資料コードも付した。

『和漢名数大全三篇』（1849年）
〈資料コード912455133〉
『続和漢名数大全』（1847年）
〈資料コード912455151〉
『和漢名数大全続編』（1847年）
〈資料コード912382449〉
『続和漢名数大全　第三巻（1847年）
〈資料コード912455554〉
『貝原養生訓一～八』（1834～59年）
〈資料コード911789044〉
『初学訓一～五』（1815年）
〈資料コード911914367〉
『諸菜譜一～三』（1815年）
〈資料コード912402336〉
『大和俗訓一～八』（1815年）
〈資料コード913388044〉
『女大学　女今川』（1790年）
〈資料コード912390262〉
『京都めぐ里』（1784年）
〈資料コード9123890262〉
『童子訓一～三』（1773年）
〈資料コード911914590〉
『和州巡覧記』（1721年）
〈資料コード912389332〉
『官位訓全』（1717年）
〈資料コード911516154〉
『大和本草一～十六』（1715年）
〈資料コード912398000〉
『日光名勝記』（1714年）
〈資料コード911865496〉
『家道訓一～六』（1714年）
〈資料コード911910967〉
『楽訓上中下』（1711年）
〈資料コード911913557〉
『萬實鄙車記上下』（1705年）
〈資料コード911314337〉

前掲書のうち『童子訓』『女大学・女今川』の２本は、往来物資料に該当するものである。これらの往来物資料を目的別に分類すると、女子用と教訓科往来が１本ずつとなり、出版地域別では、大坂と江戸が1本ずつであった。島根県立図書館所蔵の往来物資料の所蔵状況については整理して公表済み[4)]であり、本稿では、貝原益軒著作資料に焦点を絞って紹介するが、その所在状況は内容面から考えると幅広い領域や分野の資料であることが確認できるといえる。

『続和漢名数大全』は、『国書総目録』では『和漢名数大全　続編』の名称で立項されている。語彙に分類できる資料であるが、京都・大坂・江戸の三都出版であった。『和州巡覧記』は紀行に分類できる資料であり、『大和俗訓』は教訓に分類できる資料である。この２本はともに出版地域は不明であった。

書誌や内容紹介は次章で述べるが、これら５本は作成の目的や資料分類における分野も異なるものである。島根県立図書館の所蔵資料においては、近世期成立の文献における貝原益軒著作資料の存在が大きいことが確認でき、山陰島根地域において、益軒の著作活動が、地域の教育実情や背景に何らかの影響を及ぼしていた可能性を示唆しているといえる。益軒の著作資料の利用実態の解明が、今後のひとつの重要な観点となるであろう。

## 3　貝原益軒[8)]について

寛永７（1630）年11月に福岡城下に生まれたが、父の寛斎も家督を継いだ兄の楽軒も、黒田家に仕え、祐筆をつとめて武より文にゆかりの家系であった。益軒は、壮年期に藩から退去し、浪人生活を送った後、藩医として藩へ復帰するが、儒学修行で京都へ遊学する等、波乱の半生であった。

寛文５（1665）年に福岡に呼び戻されるが、長い年月の間に、医学、本草学、儒学、地理学、歴史学等、広範な分野の学識を身につけていた。益軒の著作は、約99部、250巻もあるといわれる。

最も著名な『養生訓』は、84歳の時に制作したものである。医学的な見地からだけでなく、一般的な生活心得という側面が特徴であり、そのため、長く広く、多数の読者層に読み継がれていった。

往来物の作成者としても知られており、本調査でも、子供向けの『童子訓』の教訓往来資料と女性向けの教養書である『女大学　女今川』が確認された。これらも流布した文献資料であり、当時、影響力を及ぼした存在であったと推測される。

## 4　資料紹介

18本の著作資料が確認されたが、その中から『童子訓』『女大学・女今川』『続和漢名数大全』『和州巡覧記』『大和俗訓』の５本について、書誌文献調査の結果を紹介する。

### 4－1　『童子訓』について

〈表紙〉紺色
〈形状〉22.0cm×15.8cm
〈丁数〉全28丁
〈出版地〉大坂
〈出版年〉安永２（1773）年
〈分類〉教訓科往来

【画像１】『童子訓』表紙

【画像２】『童子訓』最終丁

【画像１】にあるように表紙は紺色で、題箋に「童子訓　三　教女」の題名文字が確認できる。【画像２】は最終丁であるが、「安永二発巳年九月」「書林　大坂心斎橋　渋川清右衛門」と刊行についての記載がある。貝原益軒の著作は多数知られているが、特に教訓科往来の代表的なものとして流布したものである。柱書には「童子訓巻之三」とある。三冊本と思われるが、残存しているのは三巻だけで一二巻は欠本であった。

### 4－2　『女大学　女今川』について

〈表紙〉青色
〈形状〉25.0cm×17.7cm
〈丁数〉全25丁
〈出版地〉江戸
〈出版年〉不明
〈分類〉女子用往来

【画像３】『女大学・女今川』表紙

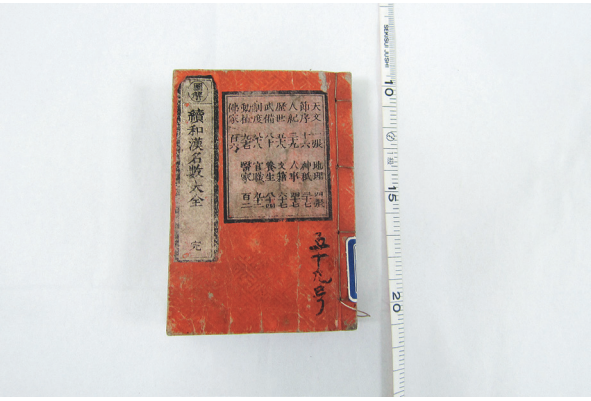
【画像４】『女大学・女今川』表紙裏～１丁表

貝原益軒の多数の著作のなかでも、最も知られた文献のひとつともいえる。江戸時代、女性のあるべき姿、「躾方」を説いたものであり、影響力も多大であった。【画像３】に見えるように一冊本であり、題箋に「教鏡　女大学　女今川　全」と認められる。表紙は青色で地模様がある。【画像４】に見えるように表紙裏部分に「女大学」との表題があり、一丁表の上段に絵が描かれ、外題に本文が記されている構成となっている。絵入りのため、読みやすく親しみやすい工夫がなされている。柱書はないが、最終丁部分に「皇都書林　近江屋右兵衛板」と刊行についての記載がある。全36丁の資料である。

### 4－3　『続和漢名数大全』について

〈表紙〉オレンジ色

〈形状〉11.2×7.8cm
〈丁数〉全120丁
〈出版地〉三都出版
〈出版年〉弘化4（1848）年
〈分類〉語彙



**【画像５】『続和漢名数大全』表紙**

【画像５】に見えるように「和漢名数大全」と題箋が認められる。表紙はオレンジ色で地模様がある。最小型の11.2×7.8cmの形状で特徴的な資料である。序文一丁と本文で構成され、本文は序を入れて120丁である。柱書に「続名数」と「百一九」等と頁数の記載がある。京都・大坂・江戸の三都出版であることが知られ、「出雲寺文次郎　秋田屋太右エ門　河内屋喜兵衛　和泉屋吉兵衛」の出版者の名が列挙されている。「弘化四年丁未十二月吉」と刊行年代も記載が確認できる。

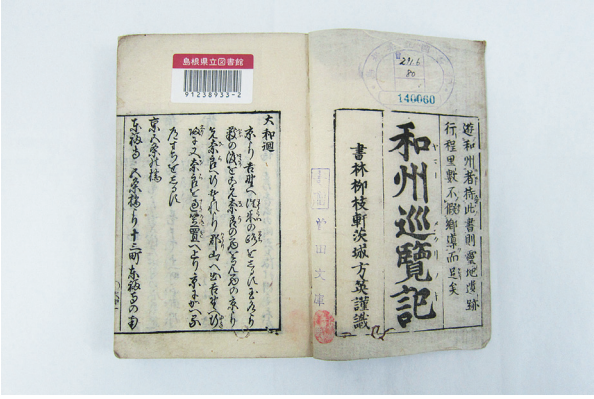
『国書総目録　第八巻』（237頁）に『和漢名数　続編』と記載されている資料に該当するものと思われる。これは「三巻三冊」で、著者は「貝原益軒（篤信）」とあり、別称として『続和漢名数』とある。ただし、「弘化四年版」については記載がなく、成立は「元禄八年刊」となっている。元禄八年版が国会図書館、東大、京大、東北大狩野文庫ほかの所蔵があり、刊年不明の資料もあるというが、島根県立図書館所蔵の「弘化四年」と記載された資料に該当するものは、『国書総目録　第八巻』には記載が見当たらなかった。

一方、『国書総目録　第八巻』に「上田元周編」の『和漢名数大全』の立項がある。これは「一冊」であり、『和漢名数大全続編』が同じく「一冊」で成立が「弘化四年刊」とある。一冊である点では、島根県立図書館資料と一致しているが、著者名が相違している。また島根県立図書館の所蔵資料についても見当たらない。

したがって、『和漢名数　続編』に該当するものか、『和漢名数大全続編』に該当するものか、書誌記載がないので判断できなかった。いずれにせよ「島根県立図書館所蔵」の資料についての記載がなく、本調査で確認した資料の詳細な検討が必要であろう。

### 4－4　『和州巡覧記』について

〈表紙〉薄茶色
〈形状〉17.0×12.2cm
〈丁数〉86丁
〈出版地〉不明
〈出版年〉享保6（1721）年
〈分類〉紀行



**【画像６】『和州巡覧記』表紙裏～１丁表**

**【画像７】『和州巡覧記』裏表紙裏**

表紙は薄茶色で題箋はない。【画像６】に見られるように表紙裏部分に「和州巡覧記」「ヤマトメクリノキ」と内題がある。「書林柳枝茨城方英　謹識」と書林名があるが出版地域は不明。一丁表一行目「大和廻」と本文が始まる。柱書は「〇大和八十六」「〇大和一」とあり、全86丁の紀行の資料である。

【画像７】に最終丁部分を示したが、「享保六」と刊行年が認められ、「貝原先生著述目次　書林柳枝軒蔵版」として書名が列挙されている。『国書総目録　第七巻』（809頁）に『大和廻』（やまとめぐり）とある

資料に該当し、別称『和州巡覧記』『大和めぐりの記』の資料である。成立は「元禄九年刊」、「一冊」本で著者は「貝原篤信」、写本が尊経閣文庫にある。元禄九年版が、薬師寺、九州大、早稲田大、東大ほか12か所にあり、享保六年版が、国会図書館や東北大ほか16か所に、文化二年版が宮内庁書陵部、刊年不明が国会図書館ほか４カ所に所蔵されている。

本資料の島根県立図書館所蔵本の位置づけについては、今後、詳細な検討を要すると思われる。

### 4－5 『大和俗訓』について

〈表紙〉紺色
〈形状〉22.4×16.0㎝
〈丁数〉20丁
〈出版地〉不明
〈出版年〉宝暦6（1756）年
〈分類〉教訓

**【画像８】『大和俗訓』表紙**

【画像８】に見えるように「大和俗訓」と題箋があるが、破損している。またこの題名は後書きと認められる。表紙は紺色で１冊本。柱書は「大和俗訓巻一～巻二」と題名および「一」～「二十終」と丁数の記載がある。「益軒貝原先生著」「大和俗訓括」「宝暦六年」との著者名や刊行の記載も認められる。

『国書総目録　第七巻』（804頁）に記載がある『大和俗訓』に該当する資料であり、教訓と分類されている。「貝原篤信（益軒）」の著作で、成立は「宝永五年刊」、「八巻五冊」の資料である。

宝永五年版の所蔵は、５か所で確認であるが、静嘉堂文庫は巻二、巻三が欠で四冊が残っているだけであり、他一か所も完本でない。すべて揃っているのは、滋賀大、松江（島根県立図書館）、無窮会神習文庫の三か所だけであるが、本調査で確認した資料は「宝暦六年版」であり、詳細な検討を要すると思われる。

## 4　まとめにかえて

『島根県立図書館　蔵書目録　第１巻～９巻』を参考に近世期に出版された、貝原益軒著作資料の状況を概観してみた。往来物資料である『童子訓』『女大学　女今川』の所蔵が確認され、子供向けと女性向けの往来物の資料が活用されていたことだけでなく、そのほかの多種多様な彼の著作物18本の所蔵が確認できた。島根地域において、こうした資料が利用されていたことを示している。

往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿では、特に貝原益軒の著作資料を中心に紹介してみた。当該地域の思想や教育背景の傾向の一端を知ることができたといえよう。

残存資料には、貴重なものもあり、注目すべき調査結果であった。従来、山陰地域の往来物資料は、『往来物解題辞典』にも記載が少なく、調査の空白地帯であった。今後、他地域の状況と比較する上でも基盤となる調査報告といえるだろう。紙幅の関係で一部の資料しか紹介できなかったが、残された課題を引き続き検討することとしたい。

### 注

１）拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」につい一関西文化との関係から一」（『関西文化研究叢書別巻　往来物の研究　第１輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年３月）、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考一近世期の京都観一」（『関西文化研究叢書別巻　往来物の研究　第３輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年３月）、拙稿「往来物の「女ことば」について」（『関西文化研究叢書　10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月）、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について一東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告一」（『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月）、拙稿「国語資料としての『都花月名所』一江戸時代後期における漢字表記と振り仮名一」（『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月）、拙稿「『南都名所記』についての一考察一山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性－」（『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月）等参照。

２）拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月）、拙稿「八戸市立図書館　旧遠山家所蔵の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月）、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010

年３月）、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料―目的と出版地からの分類分析―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年３月）、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料―目的別分類からの考察―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月）、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について―往来物資料の出版地域からの検討―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年３月）、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察―弘前・酒田・山形との比較検討―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年３月）等参照。

３）拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月）、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第115号、2016年３月）、拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物―横山家文書からの報告―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2017年10月）、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第119号、2018年３月）、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について―目的別の観点から―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第120号、2018年10月）、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について―目的別の観点から―」出版地域別の観点から―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第121号、2019年３月）、拙稿「石川県立図書館所蔵の往来物について―特殊文庫における調査報告―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第122号、2019年10月）等参照。

４）拙稿「島根県立図書館所蔵の往来物資料について―目的別と出版地域別の分類整理―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第125号、2021年３月）、拙稿「鳥取県立図書館所蔵の往来物資料について―目的別と出版地域別の分類整理－」（『弘前大学教育学部研究紀要』第126号、2021年10月）、拙稿「米田市立図書館所蔵の往来物資料について―目的別と出版地域別の分類整理－」（『弘前大学教育学部研究紀要』第127号、2022年３月）等参照。

５）『国書総目録　第１～９巻』（岩波書店、1963～1976年）参照。

６）『古典籍総合目録　第１～３巻』（岩波書店、1990年）参照。

７）往来物資料については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』（雄松堂、1988年）、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典　解題編』（大空社、2001年）、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典　図版編』（大空社、2001年）参照。

８）『古典文学大辞典　簡約版』（岩波書店、1986年）、貝原益軒著、石川謙校訂『養生訓・和俗童子訓』（岩波文庫、1961年）等参照。

**【付記】**

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、島根県立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS　KAKENHI（基盤研究（C）課題番号19K00620）の助成を受けた研究成果の一部です。

（2022. 7 .29 受理）